

■徳川家光 江戸幕府3代将軍。武家諸法度など諸制度を整備し、鎖国を完成、将軍の権威を高め幕藩体制を盤石に。

とくがわいえみつ

糸割符法始・1604＝ 浅井長政の三女江与(崇源院)を母に、翌年2代将軍になる秀忠の次男に生まれる。名は竹千代。長男長丸は早死しており、誕生とともに稲葉重通の養女福子(のちの春日局)が乳母となる。

家康駿府退隠1607＝ 3歳：

もともと病弱で、また弟の忠長を父母が寵愛するようになっていたことから、世継ぎ争いを生じたが、

支倉常長渡欧1613＝ 9歳：

大坂夏の陣・1615＝11歳： 乳母春日局の直訴もあって、家康は竹千代を世継ぎと決定、秀忠は、守役として酒井忠世・土井利勝・青山忠俊を任命、輔翼させた。

徳川家康没・1616＝12歳：

支倉常長帰国1620＝16歳： 元服、名を家光と改め、従二位権大納言となる。この前後、かぶきの風俗が流行し、家光もこれを好んで衣装・髪・化粧に凝り、合せ鏡をしたり、市中を微行して辻斬のうわさをたてられたり、躍りにうちこんだりしたが、忠俊の強い諫言もあって改まった。

元和大殉教・1622＝18歳：

徳川家光将軍1623＝19歳： *父秀忠とともに上洛して将軍宣下を受け、正二位内大臣。鷹司孝子が輿入れ。

伊予断交・1624＝20歳： 江戸城本丸に入る。

人身売買禁止1626＝22歳： 再度上洛、後水尾天皇の二条城行幸を迎え、従一位左大臣。

紫衣勅許無効1627＝23歳： 勅許紫衣停止の幕命に背いた大徳寺の沢庵らを流刑にし、

後水尾譲位・1629＝25歳： 朝廷に対する幕府の優位を確定。

糸割符拡大・1631＝27歳： 謀反の疑いにより、弟徳川忠長(駿府城城主)を幽閉して、後難を排除。

徳川秀忠没・1632＝28歳： *秀忠が死去し、大御所と将軍の二元政治が解消され、一元化された将軍政治が行われることになった。まず、将軍直轄軍を再編、大目付を設置して監視を強化。早速、巨大で豪華な軍艦(安宅丸)を作らせるも、以後、使用される機会は無い。

鎖国令始・・・1633＝29歳： 奉書舟以外の渡航を禁じ、在外5年以上の日本人の帰国を禁ずる。

鎖国令Ⅱ・・・1634＝30歳： この年の上洛を最後に幕末まで歴代将軍は上洛せず、将軍宣下は勅使を江戸城に迎えて行うようになる。

参勤交代始・1635＝31歳： 武家諸法度を改訂し、老中・若年寄・三奉行(寺社・町・勘定)のほか、大目付・巡見使等の職務と権限を定め、評定所の構成と機能をとのえた。また、諸大名に参勤交代を義務づけ、譜代・外様を問わず大名の格を万石以上と規定するとともに、将軍家の近習・物頭を大名と同列として幕府政治の基礎を固めた。以上のことは、征夷大將軍という朝廷官職が、太閤や大御所といった“天下人”の権力を吸収し、固有の機構をもった独立の“将軍権力”として権能を発動し始めたことを意味する。長崎の直接掌握を果たし、貿易統制とキリシタン禁令を強化、日本人の海外往來を禁止。

東照宮完成・1636＝32歳： 日光東照宮が完成して正式に遷宮。江戸城改造の普請開始。

島原の乱始・1637＝33歳： 江戸城の本丸が完成し、移る。

島原の乱終・1638＝34歳： 島原の乱を平定。

鎖国令Ⅴ・・・1639＝35歳： ボルトガル船の来航を止める。

寛永飢饉始・1640＝36歳：

家光鎖国完成1641＝37歳： *長崎出島にオランダ商館を移して鎖国体制を完成した。

初の高札・・・1642＝38歳： 飢饉対策で初めて高札を出す。

寛永飢饉終・1643＝39歳： 「寛永諸家系図伝」完成。

明滅亡・・・1644＝40歳： 諸国鄉村高帳(郷帳)・国絵図の作成。

・・・1647＝43歳： 長崎に入港を強行してきたボルトガル船を包囲し、退去させる。鎖国体制が確立していることを示す。

慶安御触書・1649＝45歳： 慶安御触書などへと展開し、幕藩体制を国家的な統治体制として確立させたが、

徳川家光没・1651＝47歳： 大病を得て(おそらく脳卒中で倒れ不自由になって)、没した。

老中堀田正盛、阿部重次が家光に殉じて死んでいる。